



岐阜高専創立50周年
若鮎連携事業室統一ロゴ



若鮎会会報2013

創立50周年を若鮎会REBORNの年に 若鮎会会長・3期生・坂井善幸

ハイライト:

- 若鮎会会長挨拶
- 記念碑建立式典
- 50周年記念誌
- 50周年記念募金
- 50周年記念式典
- 各科同窓会報告
- 参加者募集事項
- 編集後記

若鮎会会員の皆様、如何お過ごしでしょうか？
2012年～2013年度の会長を拝命しております
電気情報3期生の坂井でございます。

今年は岐阜高専創立50周年を迎え卒業生も7
000名を超える時代となりました。また創設期の1
～4期生は定年退職を迎え、第2の人生に向けた
転職や起業活動、シニア社員としての継続勤務、
各種社会貢献活動への参加、趣味を生かした自
分作り等、さまざまな生活スタイルが始まり若鮎会
は従来にも増してより一層幅広い人材集団と成りつ
つあります。

また、各科におかれましては50周年を機会に同
窓会組織の再構築を積極的に推進して頂いてお
り、それを機動力として50周年記念誌への寄稿に
おきましても多大なるご協力を頂き、厚く御礼申し

上げます。記念誌の原稿を拝読させていただきますと、
皆様が実に幅広く活躍されていることが良く判り、大
変頼もしく思う次第であります。

さて、50周年の記念事業に関しましては、すでに
学校のホームページや各科の同窓会組織からもご
案内が届いていることと思いますが、若鮎会としても
実行委員会を設け、学校の計画に関する各種の提案
や募金活動への協力を推進しております。

つきましては若鮎会の最近の活動状況を「会報」
に取りまとめ、皆様にお知らせする次第です。これを
機に若鮎会の活動も新しい50年の歴史を作るべく
活性化して参りたいと思いますので、皆様方には今
後ともご理解とご協力を頂きますよう、宜しくお願
い申し上げます。

若鮎会会報発行に寄せて:岐阜高専の近況 岐阜高専校長 北田敏廣

平成23年4月より、岐阜高専の校長を務めてい
ます。岐阜高専の卒業生、若鮎会の皆様には、は
じめてごあいさつします。前任地は、豊橋技術科学
大学です。私より前のお二人の校長、小崎正光先
生、榊原建樹先生が電気・電子工学系のご出身
であるのに対して、私は建設工学系、エコロジー工
学系と異動し、最後は環境・生命工学系に居りまし
たので、岐阜高専の先生方にとっては、久方ぶりに
毛色が変わった？校長を迎えて、少し戸惑いも
あったのではと想像しています。

大学の研究室の学生の多くが高専卒業生であ
ったにも関わらず、私自身は高専の実態をよく知ら
ないというのが実情でしたが、赴任が決まってから、
“高専機構”の第2期中期計画のキーワードが高専
の“高度化”と“国際化”であることを知り、また岐阜
高専の50周年を平成25年度に迎えることも知りま
した。前任の校長先生方が築いてこられた良き伝
統は生かしつつ、次の50年？への礎石の一部でも
据えられたらと考えています。

この2年間、岐阜高専は国際化に向けて、急速に
舵を切りました。組織的には、平成25年4月より“国
際交流室”を設置し、学生の海外インターンシップ、
留学生の受け入れ、海外大学の教員との相互交
流、セミナー開催などの企画を、一元的に扱って
います。バンドン工科大学、マレーシア工科大学、ド
イツ・ハノーバー大学、米国アイオワ大学と包括的な
交流協定を結び、今夏は、従来の英国TYK Ltd.へ
の2名に加えて、バンドン、マレーシアにそれぞれ3
名、ハノーバー、アイオワに各2名の合計12名の専
攻科生を海外実習に送り出します。また、全教員の
研究テーマを英文アブストラクト集として編み、これ
らの大学との教員交流に活用しようとしています。

以上、“岐阜高専キャンパス”を内外の大学・研
究機関、地域産業界、地域住民の交流の核として
位置付けるべく“ビジターフレンドリーな岐阜高専”を
ハード、ソフト面で演出しようとしています。50周年
を期に、これらのプロジェクトを実現する基金のプロ
モーションを行っていますので、母校の発展のため
に、ご寄附、ご協力のほどお願い申し上げます。

目次:

創立50周年特集	2
記念誌頒布紹介	3
新聞記事紹介	4
M・E近況報告	5
C・A近況報告	6
D近況報告・他	7
連絡先・編集後記	8

記念碑復元・創立50周年記念碑建立および除幕式典報告（H25.4.22）

10年ほど前から創設期の卒業生より、鶴沼仮校舎の記念植樹碑はどうなったのだろう。見当たらないという声があちこちで挙がっていた。

意を決して平成19年1月26日鶴沼第一小学校を訪ね校長先生・教頭先生に記念植樹碑について何うも引継ぎがなく不明だった。各務原市教育委員会を訪問し事情を説明し平成18年度鶴一小配置図（文部科学省）を見せてもらおうと植樹された辺りはプールになっていた。その後岐阜高専10年誌の写真と桑海先生の記念植樹寄稿文を示しながら鶴一小を数回訪問しPTA他の了解を得て頂き平成22年2月1日旭校長先生から校庭内に復元碑の設置許可書を頂いた。

復元碑建立趣旨が整い、旧制高校跡碑等を調査見学し5年制高等教育機関発足の地を特徴付けるべく五角形で自然石をという卒業生の意見から六方石材群より五角形のものを選び、50年前の記念植樹碑を揮毫された永田双魚（重利 85才）さんに揮毫を依頼し1期生の職場現場にて碑文を彫り込み、更に岐阜高専50年誌の記念碑・鶴沼仮校舎写真を焼付けたタイルを貼り付け、創立50周年の証とした。

鶴沼仮校舎「岐阜工業高等専門学校発足の地」（185cm）・本巣本校「創立五十周年記念」（225cm）の記念碑2本は、絶好の開校記念日よりのもと各務原市長、本巣市長の祝辞を頂き除幕された。50年前の開学日進行を務めた森 基要名誉教授（88才）の祝辞は、創設当時を彷彿とさせ互いに胸を熱くする内容であった。（若鮎会50周年記念事業実行委員会副委員長・O2E奥野 泉）



鶴沼記念碑復元事業写真紹介

素晴らしい春日に恵まれ、来賓・創設期の卒業生45名参加のもと除幕式と枝垂れ桜の植樹が行われた。報道機関5社の取材・報道を受け創立50周年事業の進捗を飾った。

創設期卒業生撮影による集合写真と報道機関の好意により各紙に掲載された写真とコメントを掲載する。

（母校・若鮎会ホームページもご確認下さい）



母校創立50周年記念碑建立式典写真紹介

記念碑と楠植樹は、岐阜高専「いぶきストリート」に設置されました。22期生植樹及び既設の楠と共に「いぶきストリート」を雄々しく覆い憩いの広場を提供してくれることを祈念します。

創立五十周年記念碑除幕と楠木記念植樹、及び創設時3学科集合写真を掲載する。



記念バスツアー写真紹介(H25.4.22)

記念バスツアーは、全国からの卒業生を迎え創立50周年事業進発を發起するべく計画された。JR岐阜駅を8:20出発し、鶉沼仮校舎跡地で「岐阜工業高等専門学校発足の地」碑の除幕・枝垂れ桜の植樹を実施した。続いて本巣本校に移動し、「創立五十周年記念」碑の除幕・楠植樹を実施した。その後、本巣最北の地根尾うすずみ温泉に於いて「岐阜高専創設時回顧ミニパーティー」をバックとしたツアーとして実施された。創設時卒業生を



中心に岐阜駅集合30名・鶉沼仮校舎45名・本巣本校51名・うすずみ温泉37名の参加で実行された。

50年前鶉沼仮校舎門に掛かっていた「岐阜工業高等専門学校」看板は、鶉沼仮校舎から本巣本校に移転時所在不明となっていたが、平成25年4月22日鶉沼仮校舎「岐阜工業高等専門学校発足の地」碑復元と共に復活し、ツアーに同行後、校長室に着地し保管されることになった。(p.1参照)



バスツアースタートの記念碑除幕式典で祝辞を述べる森名誉教授

創立50周年記念誌頒布方法の紹介(H25.6.1～H25.9.30)

全学科総勢180名以上の寄稿による、卒業生の近況報告を中心とする「岐阜高専創立50周年記念誌」が作成されます。豪華装丁によるカラー印刷製本版と、50年史等の資料を含むDVDからなるものです。50周年記念募金5口以上の寄付者には贈呈されますが、是非多くの方々に印刷製本版を手にとりて頂きたいと、特別に頒布を計画させて頂きました。

岐阜高専創設期のシニアOB・OGにとっては大変懐かしい同窓生の近況報告が、近年卒業したOB・OGや現役学生にとっては、高専卒業後の様子が、卒業時から定年退職後まで、シリーズにわかる大変貴重な資料です。懐かしい写真や名誉教授等の寄稿も含まれています。是非、頒布希望をFAXして頂ければ幸いです。

発行予定日：平成25年11月16日

発行部数：1000部(頒布希望者多数の場合は増冊予定)

寄稿者数：200名程度・豪華装丁版+DVD資料編含む。電子ブック形式含む。

頒布価格：5000円(送料・手数料含む・頒布記念品贈呈)。この頒布価格は原価相当ですが、全学を若鮎基金の増資等、母校50周年記念募金に寄附する予定です。

頒布希望方法：50周年記念募金の申込書の募金口座に別紙により50年誌頒布希望として申し込み、5000円を振り込み。

問い合わせ先：創立50年誌編集委員会(長南図書館長)

to3@gifu-nct.ac.jp 図書館図書・情報係・50年誌担当

創立50周年記念募金へのご協力お礼とお願い(～H25.12.31)

各科同窓会や母校ホームページで紹介されていますように、母校岐阜高専の創立50周年記念募金活動が推進されています。同窓生各位のご協力により50周年となる本年4月には、既に1,500万円以上のご寄付が報告されています。

募金事業の目標が若鮎会50周年記念事業実行委員会により2,500万円に設定されました。募金は、校内整備事業、若鮎基金の継続、国際交流の推進、図書館の充実等、母校・学生の学習・研究環境の改善に活用されます。

たとえば、創立50周年を迎えた母校を、利用者や訪問者に配慮した学びの環境とするため、校内案内板のリニューアルはじめ、1-2号館のつなぎ部分の整備、駐輪場や駐車場の整備など、安全で明るい環境整備が進められつつあります。折り込みのFAXシートを活用して頂き、是非、個人または団体等として、50周年記念募金にご協力をお願い致します。

募金状況の紹介ホームページ

<http://www.gifu-nct.ac.jp/techno/50kinen/50kikin.html>



改修され明るくなった1-2号館一階つなぎ部分

岐阜高専創立50周年記念事業紹介記事

発足の地、記念碑復元

50周年 仮校舎時代の各務原に

本真市上真桑、岐阜工業高等専門学校の同窓会「若船会」(坂井善幸会長)が、創立当初の1963年度に仮校舎が置かれた各務原市鵜沼西町の鵜沼第一小学校の校庭に発足の地記念碑を建立し、22日に除幕式を開いた。

岐阜高専は、本校となる1963年、岐阜市立鵜沼第一小学校を仮校舎として、



岐阜高専の創立50周年を記念して「発足の地」を復元する関係者(左)と鵜沼第一小学校の校庭

半世紀前に設立された国立岐阜高専(本真市)の卒業生たちが、創立時に仮校舎として、一時使っていた旧鵜沼町立鵜沼中学校(現・各務原市立鵜沼第一小学校)の敷地内にあった「発足の地」の記念碑を復元した。22日に創立50周年を迎えるのを記念して企画。卒業生たちは鵜沼第一小学校に「発足の地」、現設立に、旧鵜沼町なで4町が

岐阜高専 創立50周年



「自分たちのルーツを大切にしたい」と語る高津さん(左)と奥野さん

卒業生、記念碑を復元

「発足の地」各務原に



22日の除幕式は、午前9時30分から鵜沼第一小学校で関係者約40人が参加する予定。50周年の記念碑の文字を揮毫した元岐阜高専職員の水田双魚さん(85)も出席する。その後、午前11時30分から岐阜高専でも行われる。

一期生で実行委員会の高津正吉委員長(65)(大垣市)は「数十人で生活した寮生活が懐かしい」と当時の思い出を語り、二期生の奥野聖人(65)は「自分たちが学んだルーツを自分からも大切にしていきたい」と話している。

計画。岐阜高専5年制5学科の学校で、50周年を迎えることになり、五角柱の石材(高さ1・85メートル)を石材会社から取り寄せた。また記念碑に残っていた65年当時の仮校舎時代の写真をタイムスルに焼き付けて、石材にはめ込んだ。また、桜の苗木も一緒に一本植えた。

岐阜新聞2013年4月23日

読売新聞2013年4月21日

各記事は各新聞社に掲載許可申請済みです。無断転載はご遠慮下さい。(岐阜高専総務課・岐阜高専若船会)

中日新聞2013年4月23日

朝日新聞2013年4月23日

発足の地、記念碑復元

岐阜高専(本真市上真桑)が創立50周年を記念して、旧鵜沼町立鵜沼第一小学校の敷地内にあった「発足の地」の記念碑を復元した。22日に創立50周年を迎えるのを記念して企画。卒業生たちは鵜沼第一小学校に「発足の地」、現設立に、旧鵜沼町なで4町が

本校は、本校となる1963年、岐阜市立鵜沼第一小学校を仮校舎として、



岐阜高専の創立50周年を記念して「発足の地」を復元する関係者(左)と鵜沼第一小学校の校庭

発足の地 記念碑復活

各務原・鵜沼第一小 44人が除幕祝う

この日、各務原市鵜沼第一小学校の校庭に、岐阜高専の卒業生ら44人が集まった。半世紀前、当時の鵜沼町立鵜沼中学校にあった「発足の地」の記念碑を復元した。

開校の1年後、岐阜高専は現在の本真市上真桑の校舎へ移転。その際、当時の専学校発足の地と記した記念碑を校庭の脇に建てた。だが鵜沼中が鵜沼第一小へ統合された際、記念碑がなくなっていた。

そのことを知った二期生の高津正吉さん(65)らが約6年前、「発足の地」に記念碑を建て直そう」と思い立った。市教育委員会や鵜沼第一小へかけ合い、新たな「記念碑」が建てられた。

新たな記念碑は五角柱。岐阜高専は国立の工業高等専門学校で、機械工学科など、電気情報工学科など5つの学科があるから。卒業生は7千人以上に上る。東日本大震災で1人も死者を出さなかった岩手県釜石市の釜石小学校で、子どもたちの防災教育に取り組んだ群馬大理工学研究所の片岡敏孝教授(災害社会工学)も卒業生の一人だ。

開校当時、教師だった森基要さん(88)も除幕式に出席した。「立派な教師12人で、工業分野の力を引き上げよう」と教育が始まった。高津さんは「言葉にならないうれし、これから続く後輩たちも碑を見て、学校のルーツを思い出し、大切にしたい」と話した。(竹下伸博)

機械工学科同窓会「機巢会」近況報告

岐阜高専創立50周年を迎え、記念碑の除幕式典も無事終了することができました。創設期の卒業生は手を差し伸べてくれる先輩がないという条件の元、だれもが自分自身がTrail Blazer(道を拓く人)であるという自覚のもと、社会生活を送られてきたと思います。しかし岐阜高専創立50年が経ち、やっとほぼ全世代がそろいました。

機巢会ではこの創立50周年を同窓会ネットワークの再構築の良い機会と考え、同窓会活動の大きな輪を拡げて、卒業生の人脈ネットワークを作り上げるだけでなく、それぞれの卒業生の得意分野等も把握し、情報を交換してお互いに学びあえるものになりたいと考えます。

この意味では設立50周年で、やっと岐阜高専の教育システムが完成したとも言えましょう。また、それぞれの世代、専門に横串を通すこのネットワークは世界に貢献できる大きなBusiness Chanceを生み出すことができると信じます。今後この人脈ネットワークを活性化するために各学年のクラス会に費用補助をする等の施策を今後取り入れて、タイムリーに卒業生どうしの情報交換ができるようにしたいと考えます。

機巢会会長・4期生・中野廣幸



着々と改修が進む機械工学科棟

機巢会役員 平成25年5月現在

卒期	役員名	氏名	備考
M4	会長	中野 廣幸	
M1	副会長	桑原 喜代和	
M10	副会長	白木 貞光	
M2	会計	岩井 静克	
M24	会計監査	山田 実	岐阜高専勤務
M18	会計監査・事務局	石丸 和博	岐阜高専勤務
M28	事務局長	山本 高久	岐阜高専勤務

近日中に、機巢会ホームページを岐阜高専機械工学科ホームページ内に立ち上げる予定です。各期同窓会への補助等、機巢会の情報はこちらをご覧ください。(石丸)

電気情報工学科同窓会近況報告

<http://www005.upp.so-net.ne.jp/denen/index.htm>



電苑の再発刊にあたり

電気情報工学科同窓会会長・2期生・坂 隆逸

岐阜高専電気情報工学科同窓会会員の皆様には、益々ご健勝、ご活躍のこととお慶び申し上げます。岐阜高専ならびに電気情報工学科同窓会や事業に平素よりご支援、ご協力を賜り深く感謝致します。また、電気情報工学科の諸先生方にはひとかたならぬご指導を頂き厚く御礼申し上げます。

しばらく休刊していた電苑が、皆様のご協力でここに再刊することが出来ました。今回は3月末の納期を最優先して制作、内容の検討不足の感はありますが読み応えはあると思います。電苑と云う言葉に懐かしさと共に愛着や誇りを感じ、私にはとても心地良く響きます。皆さんはどうですか？今後電苑は在校生や教員の方々も参加できる同窓会機関誌として、毎年12月に発行していく予定です。ご期待下さい。

また岐阜工業高等専門学校は、平成25年度に創立50周年を迎えました。本同窓会では、「若鮎会」と提携して創立50周年記念事業に協力する所存です。ご理解の上、ご協力頂きますようお願い致します。最後に、皆様方のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

主な電気情報工学科同窓会行事

- H24. 5. 3 第5回合同クラス会
- H25. 3. 19 電苑2012発行
- H25. 12. 01 電苑2013発行予定
- H26. 5. 3 第6回合同クラス会予定
- H27. 1 稲葉先生最終講義



第5回電気情報工学科合同クラス会(H24. 5. 3)

非常勤教師募集: 電気回路2など次年度非常勤を募集予定です。若鮎連携推進室の所担当までご連絡下さい。

岐阜高専電気情報工学科同窓会役員

役員任期: 2012年10月～2014年3月(再任可)			2012年10月
期	役員	氏名	備考
2E	会長	坂 隆逸	
6E	副会長	小島隆好	
12E	事務局長・会計	熊崎裕教	岐阜高専勤務
38E	事務局	白木英二	岐阜高専勤務
5E	事務局・会計監査	桜井邦彦	
11E	オブザーバー	所 哲郎	岐阜高専勤務

環境都市工学科同窓会「土木会」近況報告

C科卒業生の皆様には、益々お元気でご活躍のことと存じます。

岐阜高専も本年創立50周年を迎えることとなり、会員の皆様方には昨年12月に「募金のお願い」としてお知らせしたところであります。記念事業第一段としての記念碑建立式典は4月22日(月)、盛大に挙行され、荻田会長らが記念植樹に参加しました。

我々C科同窓会「岐阜高専土木会」は、1期生卒業後、会員相互の連絡、親睦向上を目的に結成され、役員(主に岐阜県職員等)を中心として、各期幹事の協力の元で、毎年会員名簿の発行を図り伝統を築いてきました。今般の50周年記念事業推進にあたりまして、他科に比べ卒業生の動向がより把握できると自負できるところであります。

さて、OBの学校支援などについて少し報告します。

1) 岐阜高専建設技術士有志会(H19年8月発足)

中部地方在住の技術士有志が学生の授業支援を行うもので、学校側からも大変期待されており6年目となる今春、岐阜高専より「特別功労賞」を受賞しました。今後一層、OBの活躍が求められるところです。

2) 産学官連携アドバイザー制度(H22年5月より)

学校における産学官連携活動の推進を図るため設けられた制度であり、H25年度はOB島崎教授とC科OB5名が委嘱を受けました。昨年アドバイザーを中心にして7期生まで代表者が打合せを持ち、「C科OBキャリアシート」を学校側でとりまとめいただきました。

今後は、具体的な母校支援活動の検討、推進が求められています。

岐阜高専が50周年を迎える本年より、各々の分野で活躍するC科OBが一層団結、交流を図り、これまでの知識や経験を生かして、学生支援や社会貢献等を高められることを強く願います。会員の皆様方のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



平成25年度特別功労賞受賞者記念写真
(建設技術士有志会1期生高崎豊代表、前列右から2人目)

C科同窓会役員名簿

卒期	役職	氏名
C24	会長	荻田 博行
C25	副会長	松井 智一
C26	〃	中田 恵介
C1	記念事業実行委員会	高崎 豊
C2	〃	宇野 哲夫
C2	〃	國枝 重一

建築学科同窓会「いちい会」近況報告

建築学科では、平成19年に本学科出身者の教員が建築学科に在籍しない状況が発生し、現在も続いていますので、「いちい会」の幹事及び若船会の学科幹事を卒業生でもない私が務めています。若船会に関する業務の他に、資格取得等のための卒業証明書や成績証明書類の発行依頼の仲介もしています。証明書類が必要な方はhag@gifu-nct.ac.jpにメール下されば、迅速にそれも無料で対応致します。

いちい会としては平成10年頃から、名簿類・会費類の事務的業務が滞って現在に至ります。今回の名簿作成に当たり、「個人情報」に関する認識が必要以上に高まったことにより苦戦しています。今回、「明らかな住所不明者」を除く1,300名余りにお知らせを郵送しましたが、134名は宛先不明で戻ってきました。住所不明の卒業生を近々建築学科HPに掲載しますので、「行方不明扱いのお知り合い」と連絡が取れるようでしたら、ご本人に連絡頂けたらと思います。また、これを機にクラス会を開催するなど、親睦を深めると共に、学年幹事を決めて頂ければ幸いです。

何時になるかは定かではありませんが、私の残り少ない在職中にいちい会名簿をCD化するなどしてお届けでききるよう努力する所存です。

建築学科幹事(学科長) 下村波基

いちい会ニュース

・平成15年12月「藤田誠一君を救う会」代表 大石 佳知氏(建築学科19期卒)により、藤田誠一さん(E24期)への募金が約8000万円集まり、移植手術が無事成功しました。

http://www.geocities.jp/save_fujita/

・平成22年2月 建築学科3期卒 宇佐美 晃三氏が犬野町長に就任しました。

<http://www.jiagifu.com/map/office/t01.html>

・平成25年4月 建築学科20期卒 吉田茂樹情報科学芸術大学院大学教授が情報科学芸術大学院大学(IAMAS)の新学長に就任しました。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kensei-unei/kocho-koho/event-calendar/sonota/iamas-daigaku/gakutyousen.html>

いちい会	会長	川島 幸美津	(A01)
	副会長	溝口 利幸	(A01)
	若船会理事	青木 浩史	(A07)
	記念事業実行委員会	宇佐美 晃三	(A03)
		山田 重也	(A06)
	若船会事務局担当教員	下村 波基	(A学科長)

電子制御工学科同窓会「せいふう会」近況報告

せいふう会会員の皆様

「せいふう会」会計 9期生 北川 輝彦
 新緑のみぎり、電子制御工学科同窓会「せいふう会」会員の皆様には、いよいよご清栄のこととお慶び申し上げます。また会員の皆様ならびに電子制御工学科の諸先生方、せいふう会の活動へのご支援、ご協力を賜り深く感謝致します。せいふう会の活動は、電子制御工学科学生が主体となる各種活動支援を行っております。過去においてはロボットコンテスト、ロボットグランプリに対する支援を行いました。また2009年9月に17期生までの会員と退官・退職された先生方による同窓会を実施しました。参加者は約200名で、新旧の教員や会員の交流もとても盛況でした。今後もこのようなイベントを継続し、会員の皆様の顔合わせや情報交換の場を企画、ご提供させて頂きたいと考えております。今後とも同窓会活動へのご参加、電子制御工学科の後輩に対するご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

また岐阜高専は今年、創立50周年を迎え、岐阜高専全体の同窓会である「若鮎会」と提携して記念行事イベントへ協力する所存です。ご理解並びにご協力いただければありがたいと思ます。末筆ながら、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



岐阜工業高等専門学校 電子制御工学科
 第1期生～第17期生合同同窓会「せいふう会」
 平成21年9月19日(土) 於:ホテル330グランデ岐阜
 せいふう会役員名簿 平成25年5月現在

期	役員名	氏名	備考
4期	会長	松村 敬光	
6期	副会長	橋本 知也	
9期	会計	北川 輝彦	岐阜高専勤務
2期	会計	畑中 裕司	
10期	会計監査	鍵井 清幸	
1期	オブザーバー	村山 聡	

若鮎会の主な年間行事等の紹介

- ・4月 若鮎会会費徴収(入学時・終身会費)
- ・4月 教育後援会への業務委託費(H24年度より若鮎会で全額支出・各種依頼業務の取り次ぎ等)
- ・5月 引継会(隔年・M-E-C-A-D)
- ・9月 創造工学実習助成(専攻科2年生の試作品材料費)
- ・9月 全国同窓会組織への本校代表派遣・年会費支出
- ・10月 若鮎の部屋(高専祭日曜日昼食として寿司とお茶120人分を用意しています)
- ・12月 岐阜高専産官学テクノシンポジウム開催助成
- ・2月 卒業証書入れの教育後援会と折半での提供
- ・3月 卒業式若鮎表彰(5学科各1名)
- ・3月 卒業式若鮎基金表彰・若鮎会会長
- ・通年 同窓会住所録保守・管理(教育後援会委託)
- ・通年 同窓生からの証明書発行依頼サポート
- ・学校側各種事業の教育後援会との共同支援

- ・卒業生アンケートの支援
- ・非常勤・産学官連携アドバイザーの推薦
- ・若鮎連携事業室による中核人材育成塾企画・運営・報告書作成等(次世代室員募集中)
- ・他高専・同窓会との連携・全国高専同窓会への参加
- ・学生のもの作り活動支援(専攻科創造工学実習補助)
- ・建設系技術士会による学校教育の支援・地域貢献
- ・50周年記念事業の主体的推進(記念碑建立等)
- ・岐阜高専参加会への参与派遣(H25～はM科参与)
- ・OBとしての学校教育等への各種提言の実施
- ・地域貢献活動の推進(若鮎連携事業室)
- ・その他。学校側から依頼のあった事業の支援・共催
- ・その他。卒業生間や学校との相互連携活動の推進

卒業生各位の活動提案・ご協力をお願いします。

若鮎連携事業室の中核人材育成事業の紹介

<http://www.gifu-nct.ac.jp/techno/index.htm>

若鮎連携事業室は、若鮎会のシニアOB・OGによる地域連携協力組織です。母校の教育・研究のサポートをすると共に、独立採算で中核人材育成塾活動等を推進しています

定年退職前後で、教育・研究活動や地域連携活動に関心のある卒業生諸氏の新規参加を是非お待ちしております。関心のある方は是非、学校窓口の研



究室か総務課総務・企画係をおたずね下さい。

今年は5学科から23名の産学官連携アドバイザーに登録頂いて、地域連携活動に協力頂いています。

有料化して自立化が進む大好評のシニアOBによる中核人材育成塾活動の様子(左写真)と募集チラシ(右の図)

平成25年度 岐阜高等地域連携協力会・岐阜高専
中核人材育成塾 基幹コース 全6回

ものづくり現場では、生産性の向上と同時に高品質・低コスト・短納期を達成することが求められており、これらに対してリーダシップを発揮して挑戦する「中核人材」の育成が重要な課題となっています。この「基幹コース」では、ものづくりを交える基本的な考え方や活動のしかたを講義と演習を交え、わかりやすく解説します。本研修は、岐阜高専OBのベテラン講師陣が平成22年度から継続開催しており、受講者の力から「感動的でわかりやすい」と好評を博しています。なお、会場から10月には、より深い専門性を磨いていただく研修として、「アドバンスコース」を開催しています。

第1回 研修から始める品質活動
 平成25年 4月18日(木) 開催

第2回 計数感覚とコスト意識を高める
 平成25年 5月9日(木) 開催

第3回 製造現場における問題解決手順
 平成25年 5月23日(木) 開催

第4回 トヨタ院モ/づくりの基幹と実践
 平成25年 6月6日(木) 開催

第5回 5Sと見える管理で理想の工場づくり
 平成25年 6月20日(木) 開催

第6回 現場管理のためのコストダウン活動
 平成25年 7月4日(木) 開催

8～10月開催の専門知識を深める「アドバンス」は6月上旬開塾開始

対象 ものづくり現場のリーダー(中核人材)の確保 経験年数5～10年程度
 定員 各講座 30名(1社複数名可)
 6回連日のご参加が基本ですが、講座単位の受講も可能です
 時間 9:30～16:30 6時間(9:00から受付)
 会場 岐阜工業高等専門学校 図書館内 多目的ホール・ビデオルーム
 講師 ものづくりについての豊富な経験や知識を有する(岐阜高専産学連携アドバイザー)が担当します
 参加費 各講座共、1講座につき1名 8,000円(地域連携協力会会員は5,000円)
 受講申込と同時に協力会入会金(年費10,000円)の両方は会員登録格を適用します
 岐阜高専地域連携開発・教育センターHP <http://www.gifu-nct.ac.jp/techno/index.html>
 申し込み期限 平成25年 3月19日(火) 必着
 申し込み方法 裏面の申込書にご記入の上、FAXをお願いします

岐阜工業高等専門学校同窓会 若鮎会

501-0495

岐阜県本巣市上真桑2236-2
岐阜工業高等専門学校内

電話 058-323-8752
FAX 058-322-6571

Email: wakaayu@gifu-nct.ac.jp 電話:教育後援会と同じ

岐阜工業高等専門学校全学同窓会



・若鮎会ホームページ

<http://www.gifu-nct.ac.jp/wakaayu/>
(各学科ホームページへのリンク等)

・クラブ・同好会ページ

<http://www.gifu-nct.ac.jp/gakusei/club.html>
(各クラブや同好会のホームページ等一覧)

・教育後援会ホームページ

<http://www.gifu-nct.ac.jp/kouenkai/>
(教育後援会のホームページ)

主な日程等

- ・H25. 4.22 創立50周年記念碑復元・建立
- ・H25. 6.11 若鮎会会報2013発行
- ・H25. 9.30まで 50年誌頒布希望者募集
- ・H25.11.16まで 50周年記念地域講演会予定
- ・H25.11.16 創立50周年記念式典・祝賀会
50年誌の発行
- ・H25.12.16 若鮎会会報2014発行
- ・H25.12.31まで 50周年記念募金

主な若鮎会の創立50周年関係事業

- ・鶴沼と本校への記念碑建立と記念植樹
- ・各務原市へ桜50本寄附(記念ロード創設)
- ・市民向け講演会の実施(学校と共催)
- ・ハードカバー製本版50年誌の頒布
- ・50周年記念品の頒布
- ・「若鮎基金」の継続
- ・各種母校記念事業への共催と助成
- ・50周年記念募金への協力

若鮎会執行部・実行委員会・事務局教員一覧(H24-25年度・第19期)

岐阜工業高等専門学校 同窓会 若鮎会 Ver.2013.6.1

事務局長:電気情報工学科 熊崎裕教, ホームページ管理:事務局長(熊崎裕教)

50周年記念事業のご案内

・「記念碑」の除幕式 ・「記念碑除幕式バスツアー」

第19期(2012.4-2014.3.31)若鮎会 50周年記念事業実行委員会

会長	E3	坂井善幸	実行委員長	E1	高津正吉
副会長	M4	中野廣幸	実行委員	M1	桑原喜代和
	D19	堀江弘基		M2	岩井静克
	C24	苅田博行		E2	奥野 泉
	A1	川島幸美津		D1	村山 聡
会計	E5	桜井邦彦		D1	南谷利明
会計監査	M32	松尾信裕		C24	苅田博行
	D20	寺井陽子		C26	中田恵介
	C27	小倉克則		A3	宇佐美晃三
	A1	溝口和幸		A6	山田重也
理事	M15	中尾賢治	学校代表(研究主事)	E11	所 哲郎
	E6	小島隆好	学校代表(図書館長)	D教	長南功男
	D19	長峰圭祐	オブザーバ	M1	井坂一男
	C25	松井智一		M1	三口栄一
	A7	青木浩史		E1	大野幸一
事務局長	E12	熊崎裕教		C1	高崎 豊
事務局員	M18	石丸和博		C2	国枝重一
	D(M30)	小林謙光		C2	宇野哲夫
	C12	和田 清			
	A教	下村波基			
A事務局補佐	A10	吉田茂樹			

編集後記

1997年、2002年に同窓会名簿を発行して以来、若鮎会の活動の見える化はホームページでの情報発信程度でありました。学生向けにはその支援活動等を拡充し推進してきましたが、卒業生へ向けての情報発信は不足しがちでした。

このたび、5年以上の歳月をかけてシニアOBと学校間の連携を進め、卒業生による非常勤講師の実施、カリキュラムの改定、産学官連携アドバイザー等による若鮎連携事業室や建設系技術士会活動等、シニア卒業生を中心とした母校及び地域との関わりを積極的に推進してきました。

母校の創立50周年を期に、これらの活動を全会員に紹介し、引き続き次世代OB・OGの参加を是非ともお願いする次第です。

(岐阜高専副校長 若鮎連携推進室長 所)